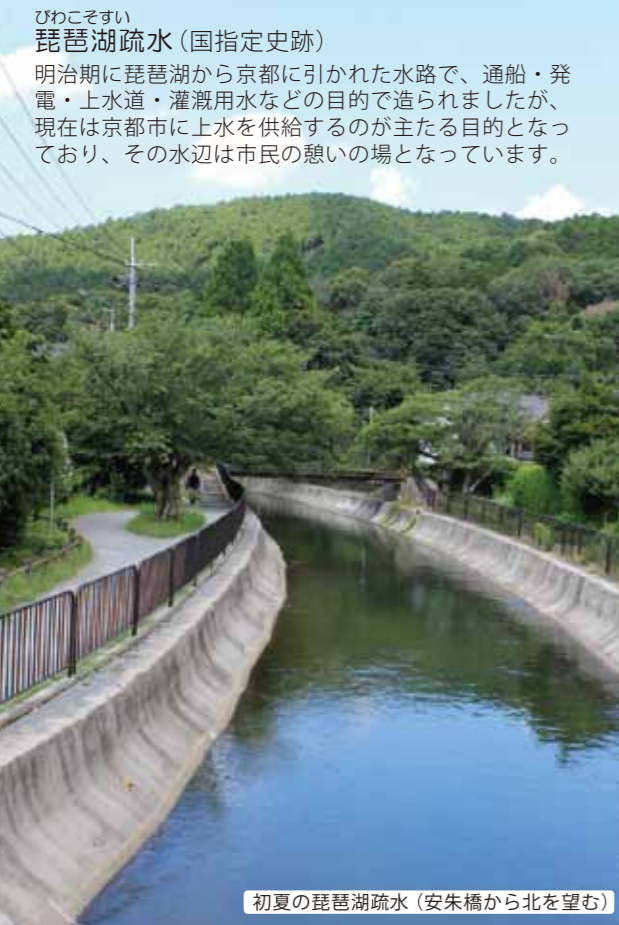


山科

琵琶湖疏水と山科の遺跡を歩く(山科北ルート)

山科(やましな)は山階とも書き中臣鎌足から始まる藤原氏との結びつきも強く、大津と京都・奈良を結ぶ交通の要衝の地でもあります。山階寺は奈良興福寺の元寺であり山科の山には製鉄遺跡のたたら跡も存在します。土の中からは蓮如上人の山科本願寺や安祥寺、安土遺跡等、貴重な文化の足跡が掘り出されています。天智天皇の御陵から明治の近代化への大事業であった琵琶湖疏水の道を通り、遺跡や社寺を巡ります。



びわこすい
琵琶湖疏水(国指定史跡)
明治期に琵琶湖から京都に引かれた水路で、通船・発電・上水道・灌漑用水などの目的で造られたが、現在は京都市に上水を供給するのが主たる目的となっており、その水辺は市民の憩いの場となっています。



やましなほんがんにしるいあ
山科本願寺土壘跡
蓮如により造営が始められました。寺域は濠と土壘で囲まれており、「御本寺」「内寺内」「外寺内」の三つの郭で構成されていました。山科中央公園内に土壘の一部が残っています。(国指定史跡)



かざんいなりじんじや
花山稲荷神社
大石内蔵助が大願成就を祈願したといわれ、献納された断食石や血判石等が残ります。また、拝殿の右側には稲荷塚と呼ばれる古墳があります。

中臣遺跡や山科の歴史を辿る(山科南ルート)

旧安祥寺川や山科川の周辺は、中臣鎌足で知られる中臣氏関係の遺跡や、古墳が多数集まっています。その歴史にまつわる社寺も多く、また時代を進めると赤穂浪士でおなじみ大石内蔵助の、仇討を前にした隠棲の地としても知られています。古墳や遺跡、歴史で有名な社寺を訪ねて、古代から江戸時代まで山科の歴史を歩きます。



おおいしじんじや
大石神社
大願成就の神徳で信仰されています。宝物殿には歴代の内蔵助役出演俳優の写真なども飾られ、参拝者を楽しませてくれます。



おりがみいなりじんじや
折上稲荷神社
伏見稲荷の奥の宮とされ、伏見稲荷と一直線上で結ばれる位置にあるため、強い御利益を得られるといわれています。境内の円墳は、「中臣十三塚古墳」の一つと伝わります。



いわやし
岩屋寺
大石内蔵助の隠棲地で、境内には遺髪塚や本堂に安置する念持仏もあり、内蔵助ゆかりの寺として毎年12月14日には義士祭で賑わいます。



さかのうえのむらまろのはか
坂上田村麻呂の墓
桓武天皇に仕え、征夷大將軍として活躍しました。勅命により甲冑兵仗を身に著け、立ったまま葬られたと伝えられています。ここより2km北西にある西野山古墳が、田村麻呂の墓ともいわれています。



山科の川景色(勸修寺公園を望む)



かじゅうじ
勸修寺
醍醐天皇が、宮道弥益(みやじのいやす)邸を寺院に改めたことが始まりです。境内には平安時代作庭の池泉回遊式庭園(市指定名勝)があり、院御所の建築遺構として書院は重要文化財に、宸殿および本堂は市指定文化財に、それぞれ指定されています。



みやぢあそんたごのはか
宮道朝臣列子墓
栗栖野丘陵にある中臣十三塚古墳群の一つ。平安時代初期、宇治郡の大領であった宮道弥益の娘の墓です。列子は後に胤子(たねこ)を産み、その胤子は醍醐天皇の生母となりました。



みやぢじんじや
宮道神社
898年に創祀。後世、宮道弥益・列子をはじめ、藤原高藤(胤子父)・定方・胤子等勸修寺ゆかりの人たちが合祀されています。



たたら遺跡
6・7世紀を最盛期とし、日本古来の方法による「たたら製鉄」が行われていたこの地域は、比良山系から湖西・湖南地域に分布している製鉄遺跡の一つです。その中にある「後山階陵」は仁明天皇の皇后、藤原順子(ふじわらのぶこ:809~871)の陵墓で、安祥寺を創建したことからここに埋葬されました。

びしゃもんどう
毘沙門堂
文武天皇の勅願で行基によって開かれました。当初は出雲路にありましたが、1665年にこの山科安土の地に再建されました。京の七福神の一つ、毘沙門天を本尊としています。



あんしやうじ
安祥寺
文徳天皇の生母である藤原順子の発願により、入唐僧 惠運(えうん)が開山した真言系の密教寺院。往時の寺院は、現在のJR山科駅の北方、東西に10町、南北に15町で、背後の安祥寺山(上寺)をも含み、広大であったとされています。平安時代末期以降、衰退へと向かい、現在は江戸時代創建の堂舎をわずかに残すのみです。(拝観不可)

さねやすしんのう
人康親王(831~872)
仁明天皇の第四子であったことから「四ノ宮」の地名の由来になった親王です。盲目でしたが、詩歌管絃に優れた人で、この地に山荘を営み、盲人たちに琵琶や朗詠を教えたといわれています。

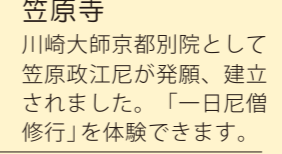
やましなほんがんにしるいあ
山科本願寺南殿跡
1489年、蓮如の隠居所として山科本願寺の東方に創設されました。約200m四方の敷地に、堀や土壘で囲まれた城郭風の居館があったといわれています。その後の焼き討ちにより五十余年後に焼失し、現在は山科本願寺南殿跡として国の史跡に指定されています。



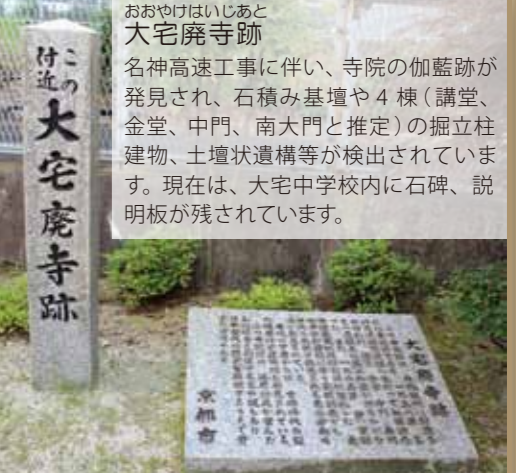
にしほんがんにしるいあ
西本願寺山科別院
蓮如が開創した山科本願寺の歴史を受け継ぐ別院。襲撃され灰燼となった山科本願寺を、第15代住如が再興しました。現在の本堂は、1772年に建立されています。



いわやしじんじやおくのいん
岩屋神社奥之院
岩屋大明神ともいわれ、山腹にある奥の院の岩窟、陰岩からは巨岩信仰の様子が垣間みられます。



りゅうげんじ
笠原寺
川崎大師京都別院として笠原政江尼が発願、建立されました。「一日尼僧修行」を体験できます。



おおやけはいしあ
大宅虎寺跡
名神高速工事に伴い、寺院の伽藍跡が発見され、石積み基礎や4棟(講堂、金堂、中門、南大門と推定)の掘立柱建物、土壇状遺構等が検出されています。現在は、大宅中学校内に石碑、説明板が残されています。



かんきくわうじ
歡喜光寺
時宗の寺院。淀君が二世安楽のために建立したと伝わる法皇寺の本堂とともに、1975年にここに移りました。



ましのんじん
随心院
美しい梅園で知られる、仁海僧正が開基した真言宗普通寺派の大本山。境内(国指定史跡)には、小野小町の艶書を貼ったという地藏菩薩が安置され、小町が恋文を埋めたとされる文塚や、化粧に使ったといわれる井戸もあります。



～文化財と遺跡を歩く～
京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

山科地区の発掘調査

三方を山で囲まれた盆地である山科一帯は、京都市内でも早くから開けた土地でした。古くは旧石器時代から人々の生活の痕跡が遺跡として残っており、中臣遺跡から発掘された石器類はそれを物語っています。中臣遺跡はその後、縄文時代以降平安時代まで盛衰はありますが集落の営みが続き、竪穴住居を始め、古墳等多くの遺構・遺物が見つかる、山科盆地の中では最大の遺跡です。

山科には前方後円墳のような巨大な古墳は存在しませんが、古墳時代後期から旭山古墳群・中臣十三塚・醍醐古墳群が築かれていきます。この3ヶ所の古墳群で山科の約9割の古墳があります。平安時代から存在し、数々の伝説を秘める安祥寺や勸修寺、中世に広大な寺内町を築いた山科本願寺跡等、脈々と受け継がれてきた歴史をたどるのに大変恵まれた地です。このような場所での発掘調査により、山科の土の中の歴史が明らかになってきています。

1 日ノ岡堤谷須恵器窯跡

天智天皇陵の西側の丘陵部に位置した、飛鳥時代の須恵器窯です。発掘調査を行った結果、窯の保存状態はとても良く、天井・煙だし・焼成部・燃焼部・前庭部が完全に残っており、灰原から多くの須恵器が見つかりました。



2 安朱遺跡

JR山科駅を中心とした、平安時代前期に建立された安祥寺の下寺跡に推定される地域を指します。下寺には、約2万㎡の寺域に塔・仏堂・僧坊・門楼があったとされます。山科駅前の再開発に先行する発掘調査で、縄文時代～中世にかけての遺構や遺物が出土しています。その中で注目されるのは平安時代前期の木炭木柵墓の発見で、安祥寺に関わりが深く、位の高い人の墓である可能性が高いものです。(遺構を切り取って保存されています)



3 旭山古墳群

山科盆地の北西部に位置する六条山の山頂から、南斜面に29基からなる古墳群です。京都市中央斎場の拡張工事に先行して発掘調査を行い、小型化した横穴式石室や小石室のみを主体とする方墳がほとんどを占める。終末(7世紀前半)期の古墳群であることが判明しました。



4 大塚遺跡

音羽中学校建設に先行する発掘調査で、古墳時代後期の竪穴住居や掘立柱建物等を発見しました。竪穴住居からは、籾(ふいご)の羽口やスラグ、焼土などが出土し、鉄器生産の工房跡の可能性もあります。



5 山科本願寺南殿

山科本願寺の東方に築かれた、蓮如の隠居所です。持仏堂・山水亭・泉水・池等が設けられていました。現在は、光照寺の敷地南側に土壘・漆・園池・築山・建物が良好に遺存し、その一部は、国史跡に指定されています。発掘調査でも漆跡等が見つっています。



6 山科本願寺跡

文明10(1478)年、本願寺中興の祖、蓮如によって造営を開始します。土壘や堀を巡らせ、城砦としての機能も兼ね備えたもので、その一部の土壘は現存し国指定の史跡になっています。近年の御本寺中心部での発掘調査では、大量の輸入陶磁器をはじめガラス玉類、漆器(堆黒・金時絵)、金属製品等、当時の最高級品が続々と見つかりました。その他、庭園や鍛冶場、排水施設等が見つっています。



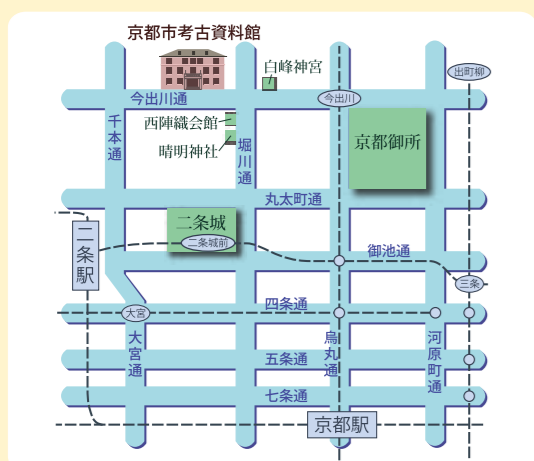
京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

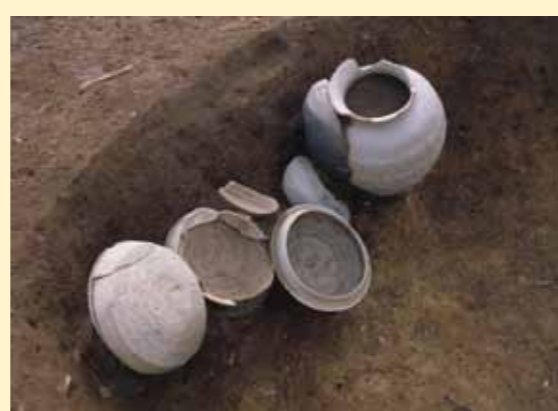
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



7 中臣遺跡

山科盆地の山科川と旧安祥寺川の合流点北側の栗栖野丘陵を取り巻く一帯に広がる、旧石器時代から平安時代まで続く複合遺跡です。弥生時代後期から古墳時代前期と古墳時代後期から飛鳥時代を主体として、多数の竪穴住居を発見しています。その他、古墳や掘立柱建物、京都市内で最古の石器等、数多くの遺構や遺物を検出しました。山科盆地最大の集落跡です。



8 大宅廃寺

昭和33年、名神高速道路建設に先立って行われた発掘調査で、白鳳時代の主要建物跡が発見され、昭和60年、その南側で大宅中学校建設に先行する発掘調査により、主要建物を取り囲む東・西・南の築地に伴う溝や建物が見つかりました。出土した遺物から白鳳時代に建立され、平安時代の中期から後期に廃絶したことがわかりました。



10 勸修寺旧境内

勸修寺は平安時代中期初頃に、宮道弥益の邸宅跡に創建されたとされています。境内に現存する庭園は、京都市指定文化財となっています。発掘調査では境内を区画すると考えられる、平安時代末期から鎌倉時代の溝や、平安時代から室町時代にかけての遺物を含む、園池の一部である池をみつっています。



9 醍醐古墳群

山科盆地の南東に位置する丘陵の頂部から南斜面に20基からなる古墳群です。発掘調査の結果、この古墳群は方墳を主体とし、内部主体は横穴式石室であり、築造の年代は7世紀の第一四半期と考えられます。また副葬品も多く、旭山古墳群より少し古いと考えられています。

